



Published by the Buddhist Churches of America,
Southern District Ministers' Association with
funding from the Southern District Council.

Southern District Temples

- Arizona Buddhist Temple
- Buddhist Church of Santa Barbara
- Buddhist Temple of San Diego
- Gardena Buddhist Church
- Los Angeles Hampa Hongwanji Buddhist Temple
- Orange County Buddhist Church
- Oxnard Buddhist Temple
- Pasadena Buddhist Temple
- San Fernando Valley Hongwanji Buddhist Temple
- Senshin Buddhist Temple
- Venice Hongwanji Buddhist Temple
- Vista Buddhist Temple
- West Los Angeles Buddhist Temple



Buddhist Churches of America

<http://buddhistchurchesofamerica.org>

南無阿弥陀仏って
なんのこと?
(2)

ワンドラ 睦
オレンジ郡仏教会

南無阿弥陀仏ってなんのこと？

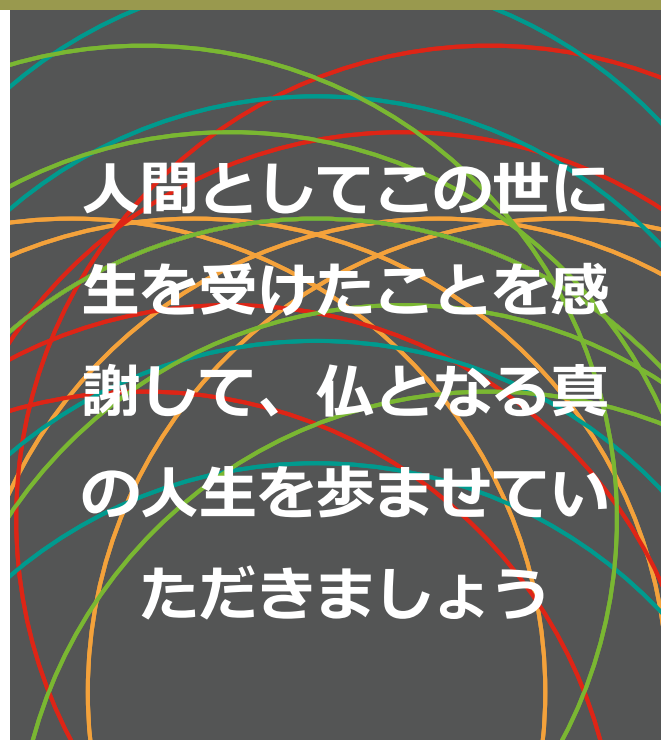
「南無阿弥陀仏ってなんのこと？（１）」のパンフレットでは、「南無阿弥陀仏」の意味と、どうして称えるのかについてお話をしました。ここでは、どのようにして「南無阿弥陀仏」を聞けばよいのか、また称えてどうなるのかについてお話ししましょう。

どのようにして、「南無阿弥陀仏」を聞くの？

現代生活において、私たちはなかなか他人の話をじっくり聞くというよりも、自分のことを話すことが多いのではないのでしょうか？ 今から８００年以上昔に生きられた親鸞聖人は「聞く」ということを大切にされた方です。親鸞聖人によると、「南無阿弥陀仏」を聞くということは、なぜ阿弥陀如来さまがこの私を含めたすべての生きとし生きるものを救わなければ仏にならないというお誓いを起こされたのか、そしてそのお誓いを完成させるために自ら「南無阿弥陀仏」という限りない智慧と慈悲の仏さまとなられ、ご自分のお名前である「南無阿弥陀仏」を私たちに回し向けられことについて考えることであるとされます。

南無阿弥陀仏を称えてどうなるの？

「南無阿弥陀仏」を称えても、金持ちになったり、事業に成功したり、また病気が治ったりはしません。「南無阿弥陀仏」は現世利益の道具ではありません。そのようなこの世における願いより、一番大事なことは自分が無明の闇のなかに生きていること



を認識して、その闇からの解放を願い、この人生をいかに生きるかを考えることが人間として生を受けた意味ではないのでしょうか。阿弥陀如来さまの名号「南無阿弥陀仏」を聞くことによって、この私の現実の在りように気づき、同時に在るべきすがたを想うことが真の人生を歩む一歩であるのです。

称えるよりも、聞くこと。

パンフレット（１）でもお話しましたように、まずは名号を聞いて、そして称えることになるのです。『大無量寿経』というお経のなかで、釈尊（お釈迦さま）が阿弥陀如来さまのお誓いをまとめられるところがあるのですが、そこに「聞其名号」（もんごみょうごう、その名を聞く）という言葉があります。要するに、私たちが阿弥陀如来さまの名前である「南無阿弥陀仏」を素直に聞くことが肝要であると示されています。「素直に聞く」と

は、偏見や我執を捨てて、静かな心で「南無阿弥陀仏」をそのままに聞くことであります。

「南無阿弥陀仏」は何回、称えれば良いの？

親鸞聖人がご存命のころも、お弟子さんのなかで、「南無阿弥陀仏」は何回称えるべきかという討論がありました。一回で十分だという人もいれば、いやいや十回はいる。また、多いほど良いなど、意見はさまざまなものでした。しかし、親鸞聖人は著作『一念多念文意（いちねんたねんもんい）』のなかで、お念仏の数が限定されないことを示されています。それは、称えないと救われないということではなく、むしろ阿弥陀仏の大慈大悲のきわまりないことをあらわしているといえましょう。自然とお念仏が出ることは、あなたが阿弥陀如来さまに抱き取られているあらわれといえましょう。

これで、少しはどのようにして「南無阿弥陀仏」を聞けばよいのか、またお念仏の数に限定がないこともおわかりになったでしょうか？ 浄土真宗は在家者のための教えであり、そのお法は奥深いものです。人間としてこの世に生を受けたことを感謝して、仏となる真の人生を歩ませてもらいましょう。

南無阿弥陀仏